せた代りに、大衆をどしどし黨から引離した。日本の皇室の連綿たる歴史的存續は、日本民族の過去における獨立不覊の順當的發展世界に類例なき少きそれを事物的に表現するものであつて、皇室を民族的統一の中心と感ずる社會的感情が勤勞者大衆の胸底にある。我々はこの事實を有りの儘に把握する必要がある。更に日本の君主制が舊ロシアのツアール、舊ドイツのカイゼル等と異り、明治維新以來、進歩の先頭に立つた事實は、ブルジョアジの間でもプロレタリアートの間でも、反君主闘爭を現實的問題たらしめなかつた。多數の犧牲者を出した幸德事件はブルジョア自由主義者のセクト的テロリズムとして記憶されるだけであつて、少しも勞働階級の革命的傳統の一部を形成して居らぬ。急進的小ブルジョアは其本質上、單純な反君主制コースに昂奮し易い。現在の共産黨が殆んどアナギズムと見分けのつかぬ反君主國体の觀を呈してゐるのは之等の要素が氾濫してゐるからである。しかしながら勞働階級はその階級的生活から資本主義機構の變革を本能的に

欲求するけれども、單純な、自由主義的な又はロシアの反ツアーリズムそのまゝの君主打倒論にくみするものでない。

× × × ×

コミンターンが反君主國爭と共に日本共産黨に課して居る今一つの大きい課程は戰爭反對特に敗戰主義である。我々はこゝにも深酷な小ブルジョア性を見る。元來、因循卑怯な平和主義を愛する小ブルジョアは、現在、之を適當に表現する手段をもたぬため、その尖端たる急進的小ブルジョア的非戰論や平和主義は我々のとるべき態度でない。我々が戰爭に參加すると反對するとは其戰爭が進歩的たると否とによつて決定される。支那國民黨軍閥に對する戰爭は客觀的にはむしろ進歩的意義をもつて居る。また現在の國際情勢の下において米國と戰ふ場合、それは双互の帝國主義戰爭から日本側の國民的解放戰爭に急速に轉化し得る。更に太平洋における世界戰爭は後進アジアの勤勞人民を歐米資本の抑壓から解放する世界史的進歩戰爭に轉化し得る。我々